

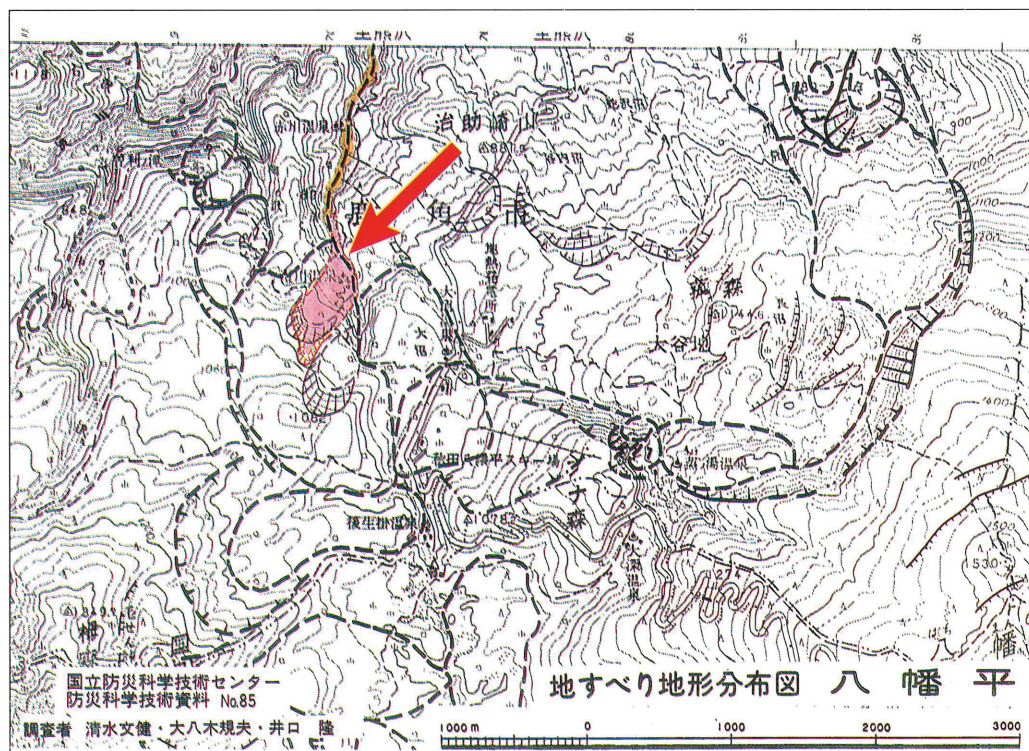
八幡平 地すべり調査

平成9年5月11日に秋田県鹿角市八幡平澄川で地すべり・土石流災害が起きました。幸い、人的な被害はなかったものの、現在も避難生活を余儀なくされている方がいます。

当研究所は5月21日から24日にかけ

て現地調査を行い、今回発生した地すべりは、過去に発生した地すべりの再動であることを確認し、その調査結果を報道関係機関を通じて発表しました。

今回の地すべりの場所は1984年に当研究所より発行した「地すべり地形分布図」にその位置と規模が示されています。



地すべり地形分布図について

当研究所では、地すべり研究を推進するための基礎資料として、地すべりが、どのような地形・地質の場所に多く発生し、その形態や規模が、どのような状態であるかなどを明らかにする目的で、地形判読により地すべり地形分布図を作成しています。

地すべりは同じ場所で繰り返し発生する傾向を持つため、過去の痕跡である地すべり地形の分布を知れば、潜在的危険度が判ることから、本分布図を防災・土地開発の基礎資料として活用することができます。

ただし、この分布図には地すべりの発生時期に関する情報は含まれておらず、地すべり地形があるからといって、すぐに地すべりが発生するというわけではありません。

この分布図は当研究所の研究資料として発行しており、配付先は大学、国立試験研究機関、図書館、自治体の防災担当部局などですが、一般の方でも当研究所に御連絡いただければ無償で配布しております。なお、送料は自己負担となります。

(連絡先＝管理部企画課)

一度地すべりが発生した場所は、バランスが保たれているが不安定な状態にあり、なんらかの原因で、そのバランスが崩れると地すべりが起きます。今回の地すべりも融雪に5月8日の雨(日雨量約110mm)が重なったことが直接の原因として考えられます。

そして、地すべり末端部での温泉変質による岩石の脆弱化や澄川の下刻など地すべり末端部での支持力の低下も原因としてあげられます。

また、現場での観察によれば、地すべり崩土の上に水蒸気爆発での灰や噴石が載っていることから、水蒸気爆発によって地すべりが発生したのではなく、地すべりの発生後に水蒸気爆発が発生したと考えられます。

下流にまで被害を及ぼした土石流は、



澄川に押し出した地すべりの土塊が、河川の水の付加などにより流動化したためと推定されます。

土石流の発生時刻は、目撃者の証言などから水蒸気爆発と同じ頃と推定されますが、互いの関係については、さらに調査が必要です。

(問い合わせ先=防災総合研究部

地表変動防災研究室)

韓国国立防災対策本部が視察

我が国と同様に、自然災害、特に台風・大雨・大雪などに悩まされている韓国は、近年人口の急激な増加に加えて、都市化が進みつつあります。

韓国政府は、地震時の被害の想定を行い、自然災害対策に地震災害を追加することとし、その調査団を派遣しました。

調査団16名は、我が国での地震によるリスクの緩和の研究や、建築物の耐震基準の調査のために10日間の予定で訪日、5月8日に当研究所を訪問し、関東・東海における地震観測や、強震観測

システム(K-NET)の運営などに関して熱心に意見交換を行いました。

引き続き行った施設の視察では、特に、大型耐震施設に興味を持たれたようでした。

(問い合わせ先=管理部企画課)



●topics●